

シリーズ

平塚のお祭り ⑤

前鳥神社例大祭

四之宮の前鳥神社は、平安時代の延喜式神名帳（じんみょうちょう）に登載された相模國13座のひとつです。また、相模國四之宮として毎年5月5日の国府祭（こうのまち）へ神輿が渡御します。このような歴史ある前鳥神社の例大祭には、他では見られない古風なしきたりが残されています。

前鳥神社の例大祭は例年9月28日です。宵宮の27日夜は遷霊祭と麦振舞（むぎふるまい）神事が行われ、県指定文化財の相模人形芝居前鳥座の人形浄瑠璃が上演されます。遷霊祭は、神輿の周囲を白布で覆い、すべての灯りを落とし、暗闇の中で



麦振舞神事

神輿へ御霊（みたま）が遷されます。照明が灯ると、麦振舞神事が行われます。20名の白丁（はくちょう）が神輿の前に座り、神官の祝詞奏上後、神酒を飲み、里芋の葉に盛られた強飯（こわめし）と、大根の煮付けに唐辛子をまぶした儀礼食を食べます。食後に白丁は喊声（かんせい）を上げて立ち上がり、神輿を担ぎ出します。神輿に供えた食物をおろして食べることで神の恵みを身体に取りこみ、力を付けて神輿担ぎに臨む意味があるといわれます。麦振舞神事は、江戸時代の天保年間（1830～1844）に編さんされた『新編相模國風土記稿』に、4月晦日に国府祭の神事として麦振舞を行うと記されています。現在も国府祭のときに神揃山（かみそりやま）手前の化粧塚で麦振舞神事を行います。

29日は午前中に式典が行われ、お昼前に神輿が宮立ちします。



神輿渡御

が焚かれる中、神輿に奠（でん）の綱と呼ぶサラシを結び、氏子総代が綱を引いて社殿へ誘導して宮着きします。その後、粽（ちまき）が撒かれます。なお、神輿に結わえたサラシを引いて宮着きし、粽を撒く慣習は横内御霊神社と大神奇木神社でも行われています。

宮着後は、賑やかに演芸会が催され、幕間に八幡、真土、中原上宿、中原御殿、茅ヶ崎市中島の太鼓保存会との競演が繰り広げられます。フィナーレは前鳥囃子の演奏。屋台一宮昇殿一昇殿一神田丸一唐楽一鎌倉一仕丁舞一印場の各曲に笛が付き、里神楽といって天狗・狐・オカメ・ヒョットコなどの面をかぶりユーモラスに舞います。

里神楽は、明治42年の大火で面が焼け長らく中絶し、昭和50年頃に復活しました。相模南部の祭囃子で踊りといえば「印場」にヒョットコがオカメの踊りが付くだけなのですが、なぜ前鳥囃子にだけ江戸祭囃子のような里神楽が伴うのか、どのようにして伝わったのか、なぜ周辺に広まらなかったのか、祭囃子研究の立場からすると気になる存在です。



国府祭での前鳥囃子と里神楽

本年の例大祭の詳細については前鳥神社へお問い合わせください。（平塚市博物館学芸担当）



近代日本画の巨匠

速水御舟

—新たなる魅力—

開催期日 平成20年10月4日(土)～11月9日(日)

会場 平塚市美術館

開館時間 9:30～18:00 (入場は17:30まで)

休館日 毎週月曜日※10月13日(月・祝)、11月3日(月・祝)は開館し、翌日休館

観覧料 一般900(720)円、高大生600(480)円※()内は20名以上の団体料金

※平塚市民で60歳以上の方、身体障害者手帳・療育手帳等の交付を受けた方は無料

お問合せ先 0463-35-2111

●展覧会内容●

速水御舟は早くから才能を発揮し、ほぼ4～5年毎に作風を変化させながら充実した画境を見せました。今回の展覧会では新出の作品も交えた約120点の作品により、御舟の全体像に迫ります。

平塚市文化振興基金にご協力を!!



発行//平塚市(文化・交流課) ●お問い合わせ及び寄付金のお申し込み

〒254-0045 平塚市見附町15-1



TEL 0463-32-2235 FAX 0463-31-6466

ご意見ご感想などお聞かせください(今後の参考とさせていただきます) →ご意見等はEメールで(E-mail //bunkoh@city.hiratsuka.lg.jp)